

高校生がササニシキの魅力発信！

第1回白高ササフェス！

11月24日、白石高校生が白石産ササニシキを活用したイベント「第1回白高ササフェス！」をおもしろい市場で開催しました。

同校の生徒19人が取り組んだこのイベントは、白石産ササニシキの魅力を発信し白石を盛り上げようと、生産者や企業、市地域おこし協力隊などの協力を得て行われました。会場では、ササニシキを使った白石高校名物「肉めし」の販売や、ササニシキとひとめぼれの食べ比べ、高校生が発案した米粉のおからドーナツ・肉団子の試食が行われ、多くの人たちでにぎわっていました。

また、売上金の一部と当日呼び掛けた台風19号の支援金を、12月3日に市に寄付しました。

参加した生徒は「これからも白石産ササニシキや白石の魅力を発信して、地域が盛り上がるきっかけをつくっていきたいです」と話してくれました。



1_肉めしを盛りつける生徒 2_おからドーナツ・肉団子の試食も大好評 3_全員で記念撮影！ 限定50食の肉めしはすぐに完売。追加販売を含めて121杯を売り上げました

全国の舞台で活躍しました

キューブ新体操教室が全国大会に出場

11月28日、ホワイトキューブ新体操教室の選手たちが「第37回全日本ジュニア新体操選手権大会」で輝かしい成績を収めたことから、山田市長を表敬訪問し結果を報告しました。

男子新体操は、遠藤悠斗くんが個人総合3位、種目別のリング・クラブでもそれぞれ3位に入賞。谷津敬直くんが個人総合5位、種目別のスティックでは2位に入賞しました。団体では21チーム中11位でした。

女子新体操は、同教室が発足して以来初出場となる全国大会で、結果は22チーム中22位と好成績にはつながりませんでしたが、多くの経験と課題を得た実りある大会となりました。

選手は「大会で見つけた課題を練習して、次の大会ではもっと上を目指したいです」と話していました。山田市長は「全国大会での貴重な経験を生かして、これからの活躍を期待しています」と激励しました。



1_山田市長と記念撮影する新体操教室の選手・コーチなどの皆さん 2_個人総合3位に輝いた遠藤くん 3_個人総合5位に輝いた谷津くん

つきたてのおもちを堪能

白石市第二幼稚園「もちつき会」

12月13日、白石市第二幼稚園でもちつき会を行いました。園児に臼と杵を使った昔ながらの伝統行事を体験してもらおうと開催し、今年で30回目。南町長寿会の方々を招き、「よいしょー！」のかけ声に合わせて、力いっぱいもちつきをしました。つきたてのおもちは、お雑煮やあんこ餅、きなこ餅にして皆で食卓を囲み、一足早いお正月気分を味わっていました。

参加した園児は「全部のおもちがおいしかったです」と話してくれました。



▲長寿会の方と楽しくおもちを食べました

寒さに負けず竹馬で走る！

大鷹沢小学校「竹馬大会」

11月26日、大鷹沢小学校で竹馬大会が行われ、児童70人が竹馬に乗り校庭を駆けました。この大会は、児童に冬の寒さに負けない体力づくりをしてもらおうと、昭和49年から続く同校の伝統行事。児童は4チームに分かれ、陣取りゲームや障害物リレー、イスや三角コーンを積み上げるピラミッド・ビルドなどで、竹馬に乗りながら元気に競い合いました。

児童は「寒さに負けないようにがんばって走りました」と話していました。



▲竹馬に乗って走る児童たち

人権を考えるきっかけに

2019人権フェア in しろいし

11月30日、「2019人権フェア in しろいし」がホワイトキューブで開催され、約200人が来場し人権に対する理解を深めました。

オープニングでは、小原中学校の生徒が迫力ある太鼓演奏を披露。講演会では、聴覚に障がいのある人で行う「デフサッカー」の日本代表・松元卓巳選手が「耳が聴こえない世界～デフサッカーを通して～」と題して講演し、「夢や目標に向かって、自分のやりたいことをつらぬいてほしい」と話していました。



▲聴覚障がいと向き合ったサッカー人生を話す松元選手